府のコロナ対策 後手に

感染急拡大　医療崩壊の危機

新型コロナウイルスの感染者数が急増するなか、感染拡大のストップへ大阪府の対応が問われている。対策が後手に回り、PCR検査数も病床確保数も不十分なままだ。医療崩壊の危機が迫っている。

重症病床増を

府が1日に公表した重症者数は125人で過去最多を連日更新している状況だ。府の説明では重症病床の確保数は206で、使用率は60・7％としている。しかし、実態はもっと深刻だ。実際に使用できる病床は1日時点で161に過ぎず、使用率は77・6％に達する。

206まで病床を確保するには患者の転院調整や不急の手術の延期など病院側の対応が必要で、すぐに重症患者を受け入れられるわけではない。一刻も早く病床を増やすことが求められる。

重症病床の不足は新型コロナが国内で流行した当初から懸念されてきた問題だ。7月の府の対策会議では、「病床を確保するために夜間救急の受け入れを一時停止した」との実態が報告され、病床不足が医療提供体制に重大な影響を及ぼしている。

府は感染拡大に備えて「コロナ重症センター」（第1期分30床）の運用を今月中旬～下旬に開始するが、重症患者数の増加に追い付いていない。病床を増やすには医療機関への空床補償や医療スタッフの人員増が不可欠であり、抜本的な対策が必要になっている。

検査足りない

PCR検査をめぐっては、府はインフルエンザとの同時流行に備え、10月末から発熱患者を地域の診療所で検査・治療する「診療・検査医療機関」の指定を開始。11月27日時点で1164医療機関を指定したが、府の目標値である1500には程遠い状況だ。検査数は4676（11月末）にとどまり、東京の8123と比べても著しく少ない状況だ。陽性率は6・8％と依然高い水準で推移している。医療関係者からは感染拡大に検査が追い付いていないとの指摘が相次いでいる。

感染拡大を食い止めるには大規模なPCR検査と感染者の隔離措置が不可欠だ。検査を担う医療機関への府の独自支援を拡充するとともに、府の責任で検査機能を抜本的に強化することが求められている。

大阪のコロナ入院・療養患者の状況（大阪府の資料から作成）

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	60床	500床	400室
	フェーズ2	80床	800床	800室
	フェーズ3	150床	1,000床	1,036室
	フェーズ4	215床	1,400床	―
確保数等 ※重症病床、軽症中等症病床について、11月19日からフェーズ4へ移行		確保数206床（実運用数161床）	確保数1,199床（実運用数1,045床）	1,555室
入院・療養者数		125人	674人	640人
（使用率：入院・療養者数／確保病床・室数）		60.7%	56.2%	41.2%
（使用率：入院・療養者数／実運用病床・室数）		77.6%	64.5%	41.2%

（1日現在）

11月生涯研

摂食嚥下へのアプローチ

他職種連携で歯科の専門性発揮を

臨床学術部は11月22日、「歯科診療所が関わる摂食嚥下障害へのアプローチ」をテーマに11月度生涯研修講座をM＆Dホールで開いた。林宏和氏（中央区・林歯科医院副院長）を講師に54人が参加した。

林氏は、「摂食嚥下障害は疾患ではなく、種々の原因が機能に障害をきたした結果、飲食物を正常に摂取できなくなる症状、症候群である」とし、原因疾患や機能・形態障害、能力障害等の階層構造ごとに症状を説明した。また、「摂食嚥下障害へのアプローチは歯周病へのアプローチに近い」と解説。評価、診断から治療計画を立案し、患者に介入、再評価し、計画を修正していく治療プロセスを示した。

林氏は内視鏡を実演しながら病態把握や診断のポイントを解説。治療に臨む姿勢について、「摂食嚥下障害者に対するチーム医療において歯科は必要不可欠であるが、摂食嚥下リハビリテーションのすべてを担うわけではない」とし、他職種連携のなかで歯科の専門性を発揮する必要性を訴えた。またリハビリの目指すべき回復のゴール地点として、「臨床的なゴール地点が正解とは限らない。患者の価値観や望む生活の中にゴール地点を見出し患者とともに取り組んでいただきたい」と述べた。

摂食嚥下障害の治療プロセスについて語る林氏＝11月22日、M＆Dホール

臨床学術部

SRPが成否分ける

動画で「あまの式」解説

臨床学術部は11月23日、M＆Dホールでスタッフ講習会「明日から実践！インテリジェント・デンティストリー」を開いた。天野敦雄氏（大阪大学歯学研究科予防歯科学教授、写真）を講師に28人が参加した。

天野氏は「う蝕や歯周病はバイオフィルム感染症であり、完全に治ることはない。マイクロバイアルシフトを防ぎ、発症させないことが必要である」と説明。「バイオフィルムの病原性には個人差があり、患者の状態を見極めた上でのブラッシング指導が重要である」とした。「特に歯周炎には、低病原性のバイオフィルムであるがプラークが大量にあることで発症する不潔性とバイオフィルムの病原性が高いことで発症する感染性があり、スケーリングするなかでプラーク量や出血の有無から患者の病原性を評価できる」と解説した。

また、天野氏は「歯周治療は正しくSRPできるかが治療の成否を分ける。きっちりSRP出来ていれば出血は止まる」と強調。SRPのポイントとして、①正しい研磨②歯肉を傷つけない③歯石のバーニッシュを作らない――ことが重要であると解説した。また、右手で刃面を維持し、左手で引き上げるあまの式SRPを動画を用いて説明した。

北河内地区

新型コロナ禍の雇用管理で講習

北河内地区は11月21日、「コロナ禍の雇用管理―トラブル回避のために」をテーマに講習会を開催し、7人が参加した。講師は社会保険労務士の桂好志郎氏が務めた。

コロナの感染拡大の影響から不安定な雇用情勢が続くもと、公的資金を活用しながら雇用の維持を図るとともに、昨今の法改正をスタッフの定着に活かす工夫についてなど、事例を交えながら解説した。

雇用調整助成金は大幅に要件緩和されたが、桂氏は「雇用契約書や賃金台帳などの不備から申請をあきらめる人がいる」と警鐘を鳴らす。休業時に賃金を支払っている場合はぜひ相談の上、これからでも活用するべきと呼びかけた。

また、労働条件を変更する際の手順など、トラブルに陥らないためのアドバイスを行った。

ドンペリ&シャブリにキャビアが付いてくる年末年始リッチセット

世紀の当たり年2008
ドンペリニヨン2008
ナイトマーケットで今も絶大なる人気を誇るシャンパーニュ。2008は、とても美味しいヴィンテージです。クリスマス料理や、おせちとも抜群の相性です。

フランス産 キャビア
スタージョン社の最高級レンジのブランドキャビア。ナッツのようなコクのある風味を持つ。業務用50g入りでたっぷり楽しめます。

特選 シャブリ
シャブリ独特のキレのある酸が、カニや魚介料理に合う。キャビアとの相性も◎

コロナ禍での年末年始…気持ちだけでもゴージャスに

2020年も残すところ1ヵ月と少し…今年はコロナで始まりコロナで終わってしまいました。
医療の最前線で戦々恐々としながら日々を過ごされた先生方、患者の受診控えで悩んでこられた先生方、1年間本当にお疲れさまでした。せめて年末年始にちょっぴり贅沢をして、コロナ疲れを癒してください。

予約販売限定40セット
私たちから感謝をこめて…
29,800円（税別・送料込）

※お届けはご注文から約1週間

ご注文は 医師・歯科医師のためのお酒のWEBサイト Dr.CONTi by Osaka MDC
詳しくはこちら https://dr-conti.com/
Dr.CONTIのサイトへは大阪府保険医協同組合オフィシャルサイトからもアクセス可能
大保協商事株式会社（大阪府保険医協同組合の100%出資子会社）
TEL：06-6568-2741（代表）　FAX：0120-562-038
大阪市浪速区幸町1-2-34　企画事業部酒販担当：白山（しらやま）・新飯田（にいだ）